



# web版 図書館 しが

## 焼き物の町信楽 信楽焼の歴史をたどって

今年9月に始まるNHK連続テレビ小説「スカーレット」は、甲賀市信楽を舞台とするドラマです。戸田恵梨香さん演じるヒロインは、日本における女性陶芸家の草分けである神山清子さんの生き方を参考に描かれます。

タヌキの置物や、素朴で美しい什器やタイルなど、多種多様な信楽焼は、滋賀県民にとって身近なものです。その歴史を詳しくは知らない方も多いのではないのでしょうか。この機会に、信楽焼の歴史をたどってみましょう。



### 明治初期の壺づくりの様子

『滋賀県管下近江国六郡物産図説／長野村陶器製造図面取調書上帳』明治6(1873)年（滋賀県立図書館蔵）

信楽陶器の産地の一つである長野村の陶器製造の詳細をまとめたもの。本書は図版が添えられていることや、もう一つの主要産地である神山村の状況と比較できることから、信楽焼の歴史を知るうえで大変貴重な資料です。

長野村は江戸時代には神仏器・壺・甕・土瓶の日用雑器や茶陶などが生産され、明治時代には火鉢などの大型陶器を製造していました。（滋賀県立図書館「近江デジタル歴史街道」より）

### なぜ信楽で焼き物がさかんになったの？～信楽焼をはぐくんだ信楽の風土

近江は古来より多くの人が行きかう交通の要衝であるとともに、中国大陸や朝鮮半島からの渡来人が多く住み着いて、高度な大陸の技術を伝えた土地でもありました。中でも信楽は、古代に聖武天皇が紫香楽宮を築いたことからわかるように、古くから開けた土地であり、さらには、古琵琶湖の地層から採れる良質な粘土と、豊富な燃料がありました。これらのことが、信楽で陶業がさかんになった大きな要因と言えるでしょう。

信楽焼は考古学的には、鎌倉時代後期にまでさかのぼることができ、日本六古窯のひとつと言われています。初期には常滑焼の影響を受けて成立した信楽焼が徐々に独自の様式をもつようになったのは、室町時代中期（14世紀後半）のことでした。

## 信楽焼の美しさとは～茶道の隆盛と信楽焼

当初は壺・甕・すり鉢といった日常生活に密着した品が多かった信楽焼ですが、室町時代以降、花入・水差・茶壺などの茶道具が盛んに生産されるようになりました。普通の焼き物は、素焼の後に釉薬（うわぐすり）をかけて焼き上げますが、伝統的な信楽焼には、釉薬をかけずに焼いたものが多くあります。焼成中の窯の中で、焼き物に降りかかった灰が高温で溶け、釉薬をかけたようになることを「自然釉」と言います。このようにして焼かれた中世信楽焼は、「古信楽」とよばれ、土と炎がおりなす独特の美が室町時代以降の茶人たちに愛されて、「わび」「さび」を尊ぶ日本人の美意識にも大きな影響を与えました。

## お茶壺道中～江戸時代から明治時代にかけての信楽焼

江戸時代には、信楽の茶壺は宇治の新茶を江戸の将軍家に献上するための道具として使われるようになりました。このお茶を運ぶ行列を「お茶壺道中」と言います。元禄時代には400人を超える大行列が、東海道や中山道をたどって江戸へお茶を運びました。お茶壺道中で使用される茶壺には、江戸から採茶使が持ってくる唐物名物茶壺以外は、信楽で新しく焼いた茶壺が使われましたが、その数は50個以上もありました。それだけの量と質の茶壺を焼くことができるのは信楽の窯だけであり、お茶壺調進は長野村のお茶壺師たちの誇りでもありました。



茶壺（『滋賀県管下近江国六郡物産図説』より）

## 時代の流れの中で～明治以降の信楽焼

明治時代以降、ブリキ缶の登場で茶壺が求められなくなると、暖房器具の火鉢が多くつくられて、信楽焼を支えました。そして、太平洋戦争中の物資の乏しい時代には、郵便ポスト、ポンプ、分銅など、様々なものが鉄の代わりに陶器でつくられました。高度経済成長期以降、石油ストーブが普及して火鉢が使われなくなると、信楽焼の中心は植木鉢やタイル、家庭で使う什器類へと移りました。

高い芸術性だけでなく、時代によりいながら、形になるものはなんでもつくるたくましさ、それが信楽焼が今まで続いてきた理由かもしれません。

## 信楽焼の歴史をいろいろとした個性的な陶工・陶芸作家たち

信楽には、昔から多くの個性的な陶工・陶芸作家が生まれ育ち、信楽焼の歴史をつくってきました。現在も、滋賀県立陶芸の森では、世界各地から陶芸家を受け入れて作品制作の場を提供しています。信楽焼の豊かな歴史をいろいろとした個性的な作家たち。その生涯を描いた本のいくつかを紹介します。

○『母さん子守歌うたって 寸越窯・いのちの記録』那須田稔・岸川悦子著 ひくまの出版 2002年 S-7537-02

信楽で育った神山清子さんは、絵が好きで絵付け職人から陶芸の道に入り、穴窯を自ら築いて「寸越窯」と名付け、その窯で焼いた作品により陶芸家として認められました。同じく陶芸家となった息子の賢一さんが白血病に倒れた時は、骨髄移植のドナー探しに奔走し、賢一さんの死後も、骨髄バンクの運動に力を尽くしました。

○『炎の声土の声』神崎紫峰著 日本教文社 1988年 S-7537-88

幼いころ、骨董屋の店先で見た桃山時代以前の素晴らしい古信楽・古伊賀。それを再現しようとして、著者は悪戦苦闘します。「人間とことん追い詰められ、もう行き場所がなくなったというときに、道は開ける」という師の言葉を支えに、穴窯を築き、窯をたき、ついに古信楽・古伊賀の美しい自然釉を再現するまでの記録です。

○『紋左衛門行状記 酒と相撲とやきもの作りの放浪人生』富増純一著 新評論 2011年 S-7533-11

奥田信斎（立浪紋左衛門）は、江戸時代末期に信楽の長野に生まれた、陶工にして相撲取りであり、現存する最古の信楽焼のタヌキの作者であるとも言われています。信州や越後など、各地に信楽焼の技術を伝え、窯を開いた異色の陶工の生涯を、自らも陶工である著者はフィクションを交えながら徹底した調査にもとづきリアルティ豊かに描きだします。

### 【参考文献】

『近江やきものがたり』滋賀県立陶芸の森編 京都新聞出版センター 2007年 S-7500-07

『甲賀市史 第5巻 信楽焼・考古・美術工芸』甲賀市史編さん委員会編 甲賀市 2013年 S-2133-5

『しがらきやきものむかし話 伝統の信楽焼・資料集 信楽焼歴史図録』富増純一編著 信楽古陶愛好会 1998年 SB-7537-98

## 今月の book★まーく

### 屋根と外壁を改修しました

図書館の建物は、昭和 55 年（1980 年）の開館以来 40 年近くが経過し、風雨による傷みが生じていました。そこで、老朽化対策事業として平成 30 年（2018 年）7 月から平成 31 年（2019 年）3 月まで、大屋根と外壁の改修工事を行いました。工事中の 12 月には、現場見学会を実施しました。来館者の皆様に見学用の足場を使って上がっていただき、大屋根を間近にご覧いただきました。

写真は左から順に、補修と洗浄を行ってきれいになった外壁、新しい大屋根、そしてその最上部にあり、1 階ロビーを明るく照らす採光窓です。工事中は外回りを覆ったシートのために薄暗かった館内も、今は天井や窓から光が差し込んでいます。工事中は皆様にご不便をおかけしましたが、ご協力いただきありがとうございました。



## 湖 国 の 本 棚

### 『秘伝・鈍穴流「花文」の庭』

慶応元年、近江に咲いた造園業の源流と展開・魅力を探る』

近藤三雄 編著 山村文志郎・山村眞司著 誠文堂新光社 2019 年 4 月刊 (5,800 円+税)



本書は、江戸時代後期の作庭家である勝元宗益が起こした「鈍穴流」を継承し、慶応元年（1865）に創業した「花文」の 150 有余年の業績と営みをまとめたものです。「花文」こと山村家は東近江市五個荘金堂の地で造園業を脈々と営んできました。長い歴史の中で近江商人の本邸や有名社寺の作庭も数多く手掛けています。秘伝書や造園道具類の解説、大福帳、そして代表的庭園作品がカラーで掲載されており、その美しさに目を奪われます。造園業の専門資料としてはもちろん、当時の職人の様子もわかり、専門家でなくても興味深く読むことができます。



## 郷土資料紹介 平成31年3月～令和元年6月購入・寄贈分より

書名	著者	出版者	出版年	請求記号
信仰と建築の冒険 ヴォーリズと共鳴者たちの軌跡	吉田与志也／著	サンライズ出版	2019.5	S-1941- 19
下鈎の歴史と暮らし 古代から平成まで	[下鈎甲歴史編纂委員会]／ [編集]	下鈎甲自治会	2019.3	SB-2122- 19
朝鮮通信使と彦根 記録に残る井伊家のおもてなし	野田浩子／著	サンライズ出版	2019.3	S-2551- 19
昭和・平成の青柳を語る	中江彰／著	青柳区	2019.3	S-2712- 19
明智光秀五百年の孤独 なぜ謎の武将は謀反人と呼ばれたのか	宮崎正弘／著	徳間書店	2019.3	S-2811- 19
信長を殺した男明智光秀の真実	跡部蛮／著	ビジネス社	2019.5	S-2811- 19
近江の山城を歩く	中井均／編	サンライズ出版	2019.4	S-2900- 19
白洲正子と歩く琵琶湖 江北編	大沼芳幸／著	海青社	2019.4	S-2900- 19
朽木谷の自然と社会の変容	水野一晴／編 藤岡悠一郎／編	海青社	2019.3	S-2912- 19
「保育士の質」の実態と課題 滋賀県南部地域における調査を手がかりに	李 霞／著	三学出版	2019.3	S-3600- 19
栗東市の左義長からみる地域社会	笠井賢紀／著	サンライズ出版	2019.3	S-3822- 19
守山昔ばなし	守山の歴史を考える会／編	守山の歴史を考える会	2019.5	S-3824- 19
近江八幡 安土の神社 くらしと祈り	近江八幡市郷土史会／編	近江八幡市郷土史会 「近江八幡 安土の神社」編纂委員会	2019.3	S-3841- 19
こども歌舞伎長浜曳山まつり ユネスコ無形文化遺産登録	吉川宏暉／写真	能美舎	2019.3	S-3861- 19
コモンズとしての都市祭礼 長浜曳山祭の都市社会学	武田俊輔／著	新曜社	2019.4	S-3861- 19
米原市自然研究の歩み 続々おじいちゃんからの贈り物	口分田政博／著	サンライズ出版	2019.5	S-5162- 19
戦国の城の絵事典 見て楽しむ	中井均／監修	成美堂出版	2019.3	S-5200- 19
ある土地の物語 中島知久平・ヴォーリズ・レーモンドが見た幻	樺島榮一郎／著	北樹出版	2019.3	S-5209- 19
オーレリアンの庭 生きものと暮らす里山のアトリエから	今森光彦／著	クレヴィス	2019.3	S-7400- 19
伊吹山麓	安田保郎／撮影 近藤誠宏／監修	岐阜新聞社	2019.4	S-7496- 19
いのちを織る	志村ふくみ／[著]	東京美術	2019.4	S-7541- 19
色を奏でる 英文版	志村ふくみ／著 井上隆雄／写真 マット・トライヴォー／訳	出版文化産業振興財団	2019.4	S-7541- 19
琵琶湖岸釣り MAP 南湖	木村建太／MAP 監修 白川友也／MAP 監修	つり人社	2019.5	SB-7880- 19
柿本多映俳句集成	柿本多映／著	深夜叢書社	2019.3	S-9211- 19
県民には買うものがある	笹井都和古／著	新潮社	2019.3	S-9500- 19

ホームページの[新刊図書案内](#)にて郷土資料の新着図書のリストをご覧ください。